

医療人育成センターのもと教養教育の充実をとおして 最高レベルの医科大学を目指します —医療人育成センターの開設に寄せて—

今井 浩三

札幌医科大学学長・理事長

札幌医科大学は平成19年4月に法人化後、皆様のおかげでほぼ順調に運営されております。外部評価も2年連続で「ほぼ順調」と評価され、経営的にも安定した状況であります。

医師、医療人の国家試験では常に合格率が我が国のトップレベルであり、地域医療への貢献という点からも私共の誇りであります。また、約7,000名になろうとする卒業生の80%以上が道内に定着しているという事実も、本学が地域医療に大きく貢献する医療人を輩出していることを示しています。しかし、世界を見渡しますと、経済・環境・平和などのそれぞれに大きな問題があり、急激でグローバルな変化の波が日本にも押し寄せております。将来にわたり、医学、保健医療学あるいは医療を通して道民や世界の方に尽くす覚悟をしつつある学生諸君に、的確に世界を認識し得る深い教養教育が必須とされるゆえんです。

これまで、いわば適性を検討するためのより正確な情報提供として、高校訪問やメディカル講座、高大一貫型e-learningなどの入学前からのアプローチ（高大接続）を行ってきましたが、さらに教養教育を大きく根本から見なおし、中期目標にも掲げてある「人間性豊かな医療人の育成」のために、「医療人育成センター」を設置いたしました。センターのもと、教養教育を高度化し、医療系大学にふさわしい独自の教育を展開する必要があります。キーワードは、広くは「世界観」であり、科学という観点からは、「論理性」、「独創性」、「情報収集力とその解析」など、また、医療に限れば、「専門職連携教育（IPE）」、「コミュニケーション教育」、「倫理性」、「思いやりの心」等が挙げられます。

そこで昨年は4月から6月にかけて、医療人育成センターの開設を記念し、寺島実郎先生（日本総合研究所会長、多摩大学学長）にお願いして、先生の責任監修による公開リレー講座「世界の構造転換の中で、日本のあり方を考える—国際的視野を兼ね備えた人間性豊かな医療人を目指して」を開催し、多くの学生、教職員のみならず、道民の方々も聴講していただきました。寺島実郎先生のほか、中村桂子先生、明石 康先生、堀田 力先生、尾木直樹先生という、まさに錚々たる先生方のご講演が展開され、大きな反響をいただいたばかりでなく、医療人育成センターの歴史に刻むことが出来る秀逸なリレー講演会となりました。ご多忙の中、監修していただいた寺島先生と5名の先生方に心から感謝いたしております。

このようなスタートを切れた医療人育成センターの内容の充実は、申すまでもなく我々の努力にかかっています。すでに、入学試験の見直し、改良が実現しつつあり、IPE教育も「地域密着型チーム医療実習」、「メディカルカフェ」として、実施され成果が上がりつつあります。さらに、医療と福祉の連携を展望した「戦略的大学連携」も開始されました。また、これからの教育は、大学を挙げて教職員全体で取り組む必要があります。学生に対する教育を契機として、教職員の意識が変革され、系統的なFD・SDなどで体系化されれば、さらに良い教育が可能となります。

このような全国的にも先駆的な「医療人育成センター」が、本学開学60年（創基65年）に本格的に活動することを誇りに思います。内容を充実させ、全国にその成果と情報を発信できるよう発展いたしますことを心より祈念いたしております。